

目立たない意識

社会科学部留学生

俞

珏

根

人は自分なりの考え方、見方、feelingなどを様々な形で受け入れたり、表現したりしながら各々の個性あるいは特徴を示しています。それが、国家の場合は国民性として現れると思います。私は異文化（日本文化）の中に生活している留学生（外人）の立場で、異文化（日本的慣習）と自分の個性（おおよそは韓国の慣習）が衝突する事を経験しました。その曖昧な経験から魅力と失望を同時に感じる複雑な気持ちになる場合もあります。

広島に来て2年目になります。この2年という年月の中で少しずつ変わって行く自分を見つけたのです。“複雑性に慣れて行くのかな”と思いながら疑問をいただきます。

広島に来て1年くらいの間は知合いから「日本にもう慣れましたか」と言う挨拶をよくよくされました。私は、“まだ、わかりません。”と答えました。本当にその時は日本の生活（言葉も、食事も、それに「たたみ」も）慣れなかった時でした。最近も、知人から同じ質問で「もう、慣れましたか」と聞かれて“まだまだです。”と答えます。しかし、このまだまだと言う答えの内容は違うのです。前者は日常生活（言葉、食事、たたみなど）で外的異文化のことであり、後者は日本人の考え方（意識）見方などの事なのです。

広島での生活中、何人か親しくなった日本人の友人ができて、その友人の家に招待された事が何回かありました。その時、いつものように日本人の家では入口にスリッパ（slippers）があってそれを私にいてねいに渡してくれたので、そのスリッパを履くのが日本の礼儀だと思いました。結局、私の誤りでたたみの上でスリッパを履くのが私にとっては礼儀にはずれたとは思

いませんでした。その誤りは続いて1年半くらい過ぎる頃、広大の友人であるH君が“たたみの上ではスリッパを履くのは失礼になるのよ”とアドバイスしてくれました。これは私には新しい事実で、自分の誤りでした。しかし、もっとはやく教えてもらったらよかったのに、……その友人に感謝しながら、日本人の意識の一面である本音と建前という言葉を実感しました。日本の友人は親切だし、やさしく話しかける方です。しかし、なぜ、本音と建前を意識しているのか、なぜ目立ちはいやであるか私は社会科学を研究する立場からこの小さい事実（事件）に対して疑問をいただき、その事実（本音はめったに話さない事）について、私なりの分析と検討をしてみます。

一番目として：本当の事実（たいていは誤りとか悪い事）を話してくれないのである。それは話すために勇気が必要とか恥ずかしいと思うかの現れである。二番目は、相手を傷つけないようにする思いやりである。最後に、他人（外人）の事だから自分とは関係ないという無関心であると思われます。

上記のように、日本社会の本音と建前、目立ちたくない意識を分析しましたが、これはあくまでも私個人の見解であるので、もう一つの日本の文化に対する誤りになるかもしれません。その点、日本の友人たちの豊かな理解力にまかせます。日本の文化の保守性あるいは閉鎖性が悪いとは思いません。ただ、現代は国際性が進んでいる社会で、自分のことだけを主張しても、相互理解と平和は言葉だけのものにすぎないのです。経済大国である日本は先進国に違いありません。先進国民らしく心を開かれて開放的、友好的に私たち留学生に本音を話して下さいませんか。